

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772402257		
法人名	有限会社陽春		
事業所名	グループホーム陽春		
所在地	大阪府枚方市東田宮1丁目16番3号		
自己評価作成日	令和6年2月17日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和6年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数なので、一人ひとりの健康状態等の変化にも早く気づき 利用者とのコミュニケーションもうまくとれています。職員も入れ替わりが殆どなく、利用者ともなじみの関係が確立しています。月2回の訪問診療と週1回の訪問看護を受け、利用者の健康状態を把握しています。食事は三食とも手作り、料理の温度も大切に、家族同様の家庭料理を提供しています。庭先に次々に咲く花等を楽しみながらリビングでは笑い声がたえないホームです。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一戸建て家屋の施設内は家庭的な温かみがあり、季節感を大切にしている。1ユニット5名の少人数で、職員の定着もよく、利用者・家族・職員が馴染みの関係を築いている。献立から手作りの食事提供を継続し、季節感や盛り付けの彩りに配慮し、行事食・誕生日の希望メニュー等、「食」の楽しみを大切にしている。ユーチューブを活用した体操や歌を日課とし、季節の制作・散歩・外出行事等、利用者が楽しみながら心身機能の低下を予防できるよ取り組んでいる。PDCAサイクルに基づいたケアマネジメント・詳細な介護記録・毎日のミーティング・ケア会議が定着し、利用者の現状に即した個別支援を行っている。24時間連絡体制の訪問診療と訪問看護による医療連携体制を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示することにより、職員への周知はもちろん、外部の人へも公開している 入職時には理念について説明している	事業所の理念を作成して玄関に掲示し、職員・家族・来訪する人との共有を図っている。「家庭的な環境のもとでその人らしく生活していただきます」「地域の人達とふれあいながら『楽しみ』と『生きがい』のある生活をしていただきます」を理念とし、グループホーム・地域密着型サービスの意義を明示している。入職時に説明し、日々のミーティングや介護計画作成時には理念に立ち戻り、利用者個々の生活の中で理念が実践できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧で地域の行事や活動の案内がある、年末には歳末パトロールにも参加し、地域の人達とも交流している 恒例の花見も今年は皆で楽しみたい	自治会に加入し、回覧板による地域の情報の案内があり、自治会長・自治会副会長(民生委員)の協力により地域とのつながりを深めている。地域からの介護相談対応・歳末パトロールへの参加・子ども110番活動・ボランティア受け入れのマイレージ登録を継続している。近隣の公園での花見会や祭りに利用者と共に参加し、餅つき大会への参加も予定し、利用者が地域交流できる機会づくりにも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	空床の問合わせや相談には快く応じているが 地域の人々にもっと積極的に話し合っていきたい		

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員・自治会副会長・民生委員・家族代表の方が出席し、地域の催しの案内や利用者の近況等話合ってサービスの向上につなげている。コロナ禍で中止の時もあるがその時は、それぞれに近況を聞いて記録している。身体拘束についても話し合っている 会議録は希望者には見てもらっている。	家族代表・自治会長・自治会副会長(民生委員)・地域包括支援センター職員・施設長を構成委員として、2ヶ月に1回開催している。市議会議員の参加も年に2回程度ある。令和4年度・5年度は、1回の書面開催を除いて、集合開催している。会議では、利用者状況、事業所の行事・活動等について報告し、参加者一人ひとりから意見や情報を聴いている。身体拘束適正化委員会も実施している。書面開催の場合は、事前に構成委員から意見を聴き、報告事項と共に議事録を作成し、構成委員に配布している。直近開催の議事録を玄関に掲示して公開している。	家族参加への働きかけを継続することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、利用者の状況や事業所の活動を伝え連携を図っている。保護課のケースワーカーとも協働して、利用者支援している。地域包括支援センターよりFAXがあり「徘徊SOS」にも協力している。	運営推進会議に地域包括支援センターから参加があり、利用者・事業所の状況を報告し、情報提供を受け連携している。報告や質問があれば、市の窓口を訪問し適正な運営につなげている。市の保護課のケースワーカーと協働し、利用者を支援している。地域包括支援センターの「徘徊SOS」ネットワークにも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を全職員が理解しており玄関の施錠は、やむを得ない場合のみ行っている 利用者の安全確保の為、身体拘束を行った事はあるが、その時は家族の同意も得て記録も残している	「身体的拘束適正化のための指針」を作成している。現在、家族の同意を得て、玄関の施錠、2階の階段前の柵、夜間モニターの設置を行っている。2ヶ月に1回開催する運営推進会議の中で「身体拘束適正化委員会」を行い、構成委員と共に適正化に向けた検討を行っている。職員に運営推進会議の議事録を回覧し、身体拘束適正化委員会の内容の周知を図っている。年間研修計画に沿って年に1回「身体拘束の理解」研修を行い、令和5年度は「身体拘束をせずに行うケア」について資料回覧による研修を行っている。利用者に外出の希望があれば、職員が同行して近隣の散歩に出かけ、閉塞感を感じないように支援している。	議事録の回覧印により、身体拘束適正化委員会の内容について職員の周知を明確にすることが望まれる。

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では虐待が見過ごされない様注意している 高齢者虐待防止関連法について皆で勉強して、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度と日常生活自立支援事業についての研修に出席し、その内容を他の職員にも説明している 必要な方にはそれらを活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を丁寧に説明して、了承を得た上で契約している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には積極的に声かけ、介護記録を読んでもらい利用者の日々の様子を詳細に伝え意見・要望が出しやすい様、配慮している 「ご意見箱」を玄関に設置している	家族に月に1回以上の来訪を依頼し、来訪時には介護記録を読んでもらい、利用者の日々の様子を詳細に伝え、意見・要望の把握に努めている。月に1回「陽春だより」を郵送し、行事の様子等を写真入りで伝えている。家族からの伝達事項等があれば、毎日のミーティングと連絡ノートで共有し、個別に対応している。玄関に「意見箱」も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昼食後の休憩時間を利用してミーティングを行い、お互いに意見や要望を出し合い運営に反映させている	毎日昼食後に施設長も参加してミーティングを行い、利用者のケアや業務について意見・情報交換し、共有事項については連絡ノートで共有している。2ヶ月に1回ケア会議を行い、利用者全員について情報共有や検討を行い、議事録の回覧で周知している。介護計画見直しの際は担当者会議を行い、職員の意見を介護計画に反映している。	

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日のように現場に来ており勤務状況を把握しながら向上心を持って働けるよう心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の力量を把握して外部研修へ参加する機会を持てる様にしている、事業所内では介護技術の相互研修も行い、ケアの向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話で意見交換してサービスの質の向上に取り組んでいる		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で本人の心身の状態や困っている事をよく聴き 安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談でこれまでの生活歴や病歴等詳しく聞き家族の願いや思いをくみとり、信頼関係を築くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談でどのような支援が必要か話し合い、柔軟に対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から職員は利用者の不安や喜び等暮らしの中で分かち合い支えあっている		

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者の様子や出来事をきめ細かく家族に伝え、本人と家族との絆を大切にしながら本人を支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族来訪時は、居室でゆっくり過ごせる様配慮している 外出は家族が行い、出かける準備等支援している	家族に月1回以上の来訪を依頼し、来訪時は居室でゆっくり面会できるよう配慮し、馴染みの関係継続を支援している。希望があれば、電話で話せるようにも支援している。自宅や外食等、馴染みの場所への外出は家族が同行し、職員は外出の準備等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は、すべての職員が把握し、調整役となって孤立しないよう気を配り支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて電話等で相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少人数の利点を活かし一人ひとりの思いや希望は充分把握でき 細かな悩みや質問にも何度でも答えている 意思表示のできない利用者には心の声を聴けるよう努力している	入居時に把握した利用者・家族の思いや意向は「全体状況アセスメント」「利用者基本情報」に記録している。入居後、日々の会話で把握した利用者の希望や来訪時に聞き取った家族の希望等は、「介護記録」に時系列で記録し、計画や支援に反映している。意思の疎通が困難な場合は、しぐさや表情からくみ取り把握に努め、ミーティングやケア会議で共有している。	

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人や家族、特にキーパーソンの方から生活歴やサービス利用の経過等、詳しく聴き、馴染みの暮らしが出来よう心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、心身状態の把握に努め「今できること」「したいこと」を考慮している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム開設当初から職員が殆ど変わらず、その人その人の現状を把握し意見を出し合い介護計画に反映している 6ヶ月に一度見直しモニタリングを行っている	「全体状況アセスメント」「利用者基本情報」「アセスメント要約表」をもとに担当者会議で検討し、初回の「介護計画」を作成している。初回の「介護計画」は3ヶ月後に、それ以降は、定期的には6ヶ月毎に、必要時は随時見直しを行っている。「介護計画」を「介護記録ファイル」の初めに綴じ、職員が計画内容を周知できるよう工夫している。日々の記録は「介護記録」「ケアチェック表」に、介護支援専門員の記録は「支援経過記録」に記録している。「介護記録」は利用者の生活の様子や心身の状況を時系列に詳細に記録し、日中・夜間で色を分け、医療面はアンダーラインを引き見やすく工夫している。「介護計画」見直しの際は「モニタリング表」でモニタリング・評価を行い、「アセスメント要約表」で再アセスメントし、担当者会議を実施している。議事録に利用者・家族の意向、職員の意見を記録し、往診時に把握した主治医の意見があれば青字で記入し、現状に即した「介護計画」に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には日々の様子と共に、その人らしい言葉使いでの表現も記入している職員間で情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている		

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の日課を決めず、その日その日の要望に応じて柔軟な対応を心がけている 一人ひとりの出来る事を支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員も運営推進会議に出席して、協力しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療も24時間体制で、安心して適切な医療を受けられるように支援している 利用者の急変時には病院の看護師に連絡して医師の指示を受けている。週1回訪問看護も受けている。医療連携がとれる様、お互いにそれぞれの記録を読みサインももらっている	契約時に利用者・家族に意向を確認し、希望に沿った受診支援を行っている。月2回内科の訪問診療、週1回訪問看護を受けられる体制がある。他科の通院受診については家族同行を基本とし、状況に応じて職員が同行支援している。受診記録は、「架け橋ノート」「訪問看護記録」に記録し、医師・訪問看護師が互いの定期訪問結果を確認し、医療連携を図っている。医療に関する記録は「介護記録」にマーカーラインをつけてわかりやすく記録に残し、職員間で周知共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション ライフサポート春日より毎週1回来てもらい日常の健康管理について相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して過ごせるよう、病院関係者と情報交換したり、早期退院に向けケースワーカーと相談している		

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を作成して、利用者・家族に説明して同意を得ている、家族・主治医と充分話し合い、全員で方針を共有して対応していく 昨年、はじめてホームで看取りを行った	契約時に、重度化・終末期に向けた事業所の方針を、「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」に沿って、利用者・家族に説明し、同意を得ている。重度化を迎えた段階で、医師から家族に説明があり、看取りの意向があれば主治医・家族・事業所で話し合い方針を共有し、看取り介護計画を作成後、医師・訪問看護・事業所で連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は応急手当の訓練を年一回行っていたが、コロナ禍で中止になり、止まっている今後、又訓練を行っていきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全計画を作成し、年2回避難消火通報訓練を行っている 各人の移動能力を確認して、いざという時の誘導方法を話し合っている 自治会副会長より地域に事業所があることを説明してもらい災害時には協力してもらえる様お願いしている 災害時を想定して非常食を備蓄している	令和5年度は6月に夜間想定、10月に昼間想定で避難・通報・消火の総合訓練を実施している。移動可能な利用者は実際に避難階段で避難し、水消火器を体験する等実践的な訓練を行っている。「防火対策及び非常災害時の理解」の研修で、避難経路・利用者の移動能力・誘導方法、職員連絡網等を確認し、周知している。「陽春だより」に訓練の様子を写真で掲載し、家族に報告している。災害に備えて、自治会副会長より地域に説明してもらい、協力体制を築いている。3日分の水・食料を備蓄し、駐車場倉庫に保管している。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、言葉かけには全職員気を配っている。誇りを傷つけないように接して、自尊心の尊重に努めている。年間研修計画に「プライバシー保護の理解」を盛り込んでいる	年間研修計画に沿って「プライバシー保護の理解」「個人情報保護」「倫理規定」の研修を実施し、新人研修では「接遇」「マナーの理解」について学ぶ機会を設けている。自尊心を尊重し、利用者の誇りやプライバシーを傷つけない言葉かけや支援に取り組み、気になる対応があれば、随時施設長より全体に向け注意喚起している。「陽春だより」への写真掲載については、契約時に利用者・家族に説明し、口頭で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で何気ない会話の中から思いや希望を表せるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の状態を把握しながら、一人ひとりのペースを大切にしている。徘徊の見守り、お喋りの相手等、希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、ブラッシングで整えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事食は特別メニューで祝ったり利用者の好みや希望を取り入れ、食事が楽しみになる様工夫している。職員も一緒に食べながら見守りしている。現在は食事の準備や片付けを一緒にする事は困難である	施設長が作成している献立は、旬の野菜や魚を取り入れ、利用者の好みや意向を反映し、年間を通じて季節感が味わえるよう工夫している。リビングの台所で1日3食普通食を手作りし、調理の音や匂いを感じたり、目でも楽しめるよう食器や盛り付けにも配慮している。季節の行事食ではおせち料理・巻き寿司・ちらし寿司・うなぎ・クリスマスメニュー等を、誕生日には好みや希望を採り入れ、食事の変化が楽しめるよう趣向を凝らしている。気候の良い日には庭で手作り弁当を食べる機会も設けている。職員も一緒に食卓を囲むことで家庭的な雰囲気が感じられるよう配慮し、適宜見守りや声かけ支援を行っている。	

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、把握している カロリーの過不足にも気を配っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや洗面所への誘導等それぞれの力量に応じた口腔ケアを行っている 義歯の洗浄、消毒も行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力に応じてポータブルトイレを利用したり、時々尿失禁がみられる利用者には排泄パターンを把握して声かけ誘導をしている	「排泄チェック表」で利用者一人ひとりの排泄状況・排泄パターンを把握している。排泄の自立度が高く、基本は布下着を着用し、可能な限りトイレでの排泄ができるよう個別に声かけ誘導を行い、適宜見守り支援している。夜間は安眠に配慮し、個々の排泄状況に応じて声かけ誘導・見守り介助・ポータブルトイレの使用・排泄用品の交換等、計画に沿った対応を行っている。支援状況・課題・排泄用品について検討事項があればミーティングで検討し、介護記録・連絡ノートに記録して共有し、現状に即した支援方法につなげている。誘導時の声かけやトイレ使用時のドア開閉等、利用者の羞恥心やプライバシーへの配慮を周知徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の及ぼす影響を良く理解しているので出来るだけ運動することや水分を多く摂るよう全員で取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応の入浴日(週3回)は決めているが一人ひとりの体調や希望に応じて柔軟に対応している 羞恥心へも配慮しつつ、安全の為に見守り介助して入浴を楽しむ支援をしている	「ケアチェック表」で入浴状況を確認し、体調や希望に応じて週3回入浴日(月・水・金曜日)に入浴ができるよう支援している。一般浴槽の個浴で、一人ひとりのペースで安心安全にゆっくり入浴ができるよう見守り介助を行い、プライバシーや羞恥心にも配慮している。菖蒲湯やゆず湯等、季節感を取り入れ、入浴を楽しめるよう工夫している。	

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は活動してもらって夜間は安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルして職員が内容を把握している 服薬時は見守り確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野でお願い出来るような事を頼んだり 散歩や歌・テレビ体操等一緒に楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園や農道を一廻りしたり、一人ひとりの力に合わせて出かけられる様支援している 外出が難しい人は敷地内で外気に触れ気分転換が出来るよう支援している	天候の良い日は利用者の希望やADLに応じて、近隣の農道や公園へ散歩にでかけている。春のお花見や秋の枚方菊花展など季節の外出に出かけたり、敷地内の庭で外気に触れたり花を見たり、手作りお弁当を食べるなど、戸外に出て気分転換できる機会づくりに取り組んでいる。可能な利用者は、夏祭りなど地域の行事に参加できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度のお金は、それぞれ財布に持っているが自分で買い物は出来ない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は職員が段取りして本人に出してもらっている		

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングがあり普通の家庭のように台所で洗い物している様子や話し声が聞こえる空間づくりになっている 壁面には毎月季節のものを飾るよう工夫している	一軒家の施設であり、利用者は少人数で、自宅のような温かく家庭的な環境である。リビングは明るく、テーブル席やソファ席、テレビを設置し、思い思いにくつろいだり、大きなテーブルを囲んで利用者が一緒に食事や談笑ができる共用空間となっている。利用者が自分の洗濯物をたたむ、食材の下準備をする等、できることを活かして、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。台所からの調理の音・匂い・話し声から生活感も感じられる。毎月壁面に季節にちなんだ利用者手作りのぬり絵や切り絵などを飾り、行事の置物により季節が感じられるよう配慮している。日課としてテレビ体操を取り入れ機能低下予防に努め、YouTubeでの音楽番組視聴等により居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横のスペースに小さなテーブルと椅子を置いたり、リビングの壁側にソファをおいて思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れたタンスやコタツ等持ち込んだり、家族の写真や置物を飾る等工夫している	1階に3部屋、2階に2部屋の居室があり、ベッド・クローゼット・エアコンが備えつけられている。各居室は窓からの採光があり明るく、毎朝個室の窓・扉を開けて換気を行っている。利用者の使い慣れたたんす・衣装ケース・テレビ・寝具や、家族写真・足用炬燵など馴染みのものが持ち込まれ、落ち着いて居心地良く過ごせるよう工夫している。居室扉に表札と目印の絵を飾り、混乱しないよう配慮している。また利用者の希望や生活形態に応じて家具やベッドの配置を工夫し、居室入口や2階階段には手すりを設置する等、安全に移動できるよう配慮している。	

グループホーム陽春

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の入り口等に手すりを設けることで、安全で自立した生活が送れるよう工夫している 居室のドアには名札や目印になる絵等を貼り分かり易くしている		